

現代版「おらが学校」の 実現に向けて



岡崎市社会教育審議会

会長 野田 光宏 氏

「なのはな」はなのはな色の小学校」
 六ツ美地区は、大正から昭和三十年代頃まで米作りの裏作で菜種栽培が盛んに行われ、田は一面に黄色の絨毯を敷き詰めたようでした。
 六ツ美西部学区社教委員会の「一筆啓上・作左の会」では、日々の生活の中から生まれた俳句や短歌を毎年募集し、令和四年度も六校の小中学校から二、四二一点の応募がありました。冒頭の俳句は、この「ふるさと賞」で入賞した小学校五年生の子の作品です。
 「作左の会」の発足には、学校と深い繋がりがありました。開校の年、六年生が地元生まれの偉人「本多作左衛門」を学芸会で上演したことがきっかけだったのです。会の機関誌「作左通信」も、学校の授業で活用すると同時に学区に配布されています。目指したのは「おらが学校」

でした。
 近年、社会に開かれたコミュニティ・スクール構想を踏まえて、「地域学校協働活動」が法整備されました。学校を核とした地域づくりを進める中で、地域と学校が連携・協働して子供の成長を支えていく活動です。
 これまでも老人クラブやPTAを中心に、登下校の見守りや読み聞かせ、学校環境整備などは行われていました。これらも子供の健やかな成長を支援する大切な活動です。その上で、持続可能な社会を担う子供たちを育てるために、学校は地域と教育のビジョンを共有し、協働して育んでいく仕組みの構築が求められています。
 岡崎の全小学校区には、全国的にも例のない幅広い層の各種団体で構成された学区社会教育委員会があります。大事なことは、そこに子供が



(のだ みつひろ)

いるから学校があり、地域の未来はあるという事実です。
 自分の学校を、今では見られない「なのはな」と重ねて詠った作者。黄一色の風景を懐かしむ住民が守る遊歩道の菜の花が、目に留まったのでしょうか。

教育随想



令和5年1月1日
 1月号
 発行・編集
 岡崎市教育委員会

今月の紙面

- 教育随想…………… 1
 岡崎市社会教育審議会
 会長 野田 光宏 氏
- この人に聞く…………… 2
 ふとん職人
 ものづくりマイスター
 坂部 恵子 氏
- 羅 針 盤…………… 2
 保健指導員 高原 美紀
- ふれあい…………… 3
 翔南中学校
 教諭 次井 祥太
- 特 集…………… 4
 学校・地域で支え合う
 「地域包括ケア」を目指して
- お知らせ…………… 6
- フォト・ヒストリー… 8
 開校100周年記念式典(昭和48年)
- この本を…………… 8



綿布団に魅せられて

ふとん職人
ものづくりマイスター

坂部 恵子氏

「技能グランプリに挑戦するまでのいきさつを教えてください」

祖父と祖父の弟とで立ち上げた製綿会社を、父が引き継ぎました。その頃、羽毛布団や羊毛布団が主流となり、綿布団の需要が減りました。

私が四十歳を過ぎたころ、父が病で倒れ、父の跡を継ぐことを決意しました。元々、自分で何かを作ることは好きでした。しかし、商売としてやっていく以上、高い技能を身に付け、自信をもってお客様に商品をお渡ししたいと思いました。

そこで、寝具製作技能士として最高峰の大会である技能グランプリに出場したいと思い、本格的に綿布団の仕立て方を学びました。技能グランプリに出場するには、一級技能士の資格が必要です。試験では、夜着

や円座布団作りの課題をクリアすることが条件でした。毎日、講習に通い、いろいろな技法を教わり、家に帰ってから、何度もほどこいては縫うという作業を繰り返しました。合格するために、毎日必死でした。家族や組合仲間の支えもあり、無事に合格することができました。

その後、技能グランプリに四回出場しました。二〇一五年には銀賞を、二〇一九年には、念願であった金賞、内閣総理大臣賞をいただきました。この二つの受賞は、私にとって大きな自信となりました。

「綿布団にこだわる理由を教えてください」

需要が減ってきていた綿布団を、私たちの代でもう一度見直そう、原点に戻ろうと夫と話し合いました。製綿会社ですので、他店にはない綿布団のよさを発信できるのは私たちだけだと思います。綿布団は、昔から吸湿性や保温性に優れ、夏は涼しく、冬は暖かいという日本の風土にも合っています。また、原料となるワタは、天然由来であるため、無駄なものは何一つありません。綿花は布団、種は花火の原料となります。

さらに、布団はワタの種類によって硬さを変えられるので、その好みも、天然由来なので、アレルギート體質の方でも安心して使うことができます。さらに、打ち直すことで、掛け布団から敷布団、敷布団から座布団へと何度も形を変え、長く使い

続けることができます。

地球環境だけでなく、人に優しいところが綿布団の最大の魅力です。

「今後の目標を教えてください」

まずは、若手職人を育てることで、残念なことには年々、寝具技能士を目指す人の数は減っています。その一方で、質のよい睡眠を求めるお客様の数は増えていきます。布団は、日本の伝統的寝具です。この先も綿布団の製作技術を守り、発展させていくためにも、若手職人の育成は欠かせません。私も技能グランプリで優勝しましたが、まだまだ勉強中です。若手と一緒に講習を受けることで、今までにない気付きがあり、勉強になります。今後、さらに綿布団のよさを求め、若い職人が増えてくれることを願っています。

そして、私も夫も元気なうちはお店を続けていくことです。お客様が私たちの店を信頼して来てくださる限り、お客様の要望に合わせた寝具や座布団を作ってお渡しするといふ今のやり方を続けていきたいです。お客様からの信頼は、私の誇りです。今後も自信と誇りをもって、綿布団の魅力を伝承していきたいと思っています。



氏名 さかべ けいこ
生年月日 一九五八年
十月二十一日
住所 岡崎市菅生町



体験学習を通して

「生きる力」を育む保健教育

保健指導員 高原 美紀

子供たちが日々、健康で安全に生活していくためにも保健教育は欠かせない。そのために、私たちは日々の生活や保健学習の中で健康の大切さを子供たちに伝えている。

A教諭は、小学校五年生の保健学習で「けがの手当」について、体験を取り入れた学習を行った。A教諭は、校内で起こり得るけがが、複数同時に発生した場面を想定して、「どのような方法で手当を行うとよいのか」という学習課題を提示した。

子供たちは、A教諭が準備したガーゼや氷が入った応急処置セットを活用し、場面や状況に応じた適切な手当の方法についての検討を始めた。「花壇のところで転んだのなら、そんなに深くは切れないよね。」



「笑顔」に感謝

翔南中学校

教諭 次井 祥太

サッカー部に入学したAはどのような状況でも明るく振る舞う生徒だ。Aの代には、ゴールキーパーの希望者がいなかった。ある日、「僕がキーパーをやります」とAが申し出た。部の現状を考えて、自分の思いを犠牲にしているのではないかと尋ねたが、「キーパーになれば、試合に出続けられますから」と笑ってみせた。しかし、実際に練習が始まると、ミスが続いたり、仲間達からの要求に応えられなかったりして、落ち込む姿が見られた。私は、少しでもAを励ましたいと思い、声をかけた。「本当によく頑張っているよね。そういう選手は必ず伸びるよ。」

「まだまだ下手ですけど、これから頑張ります。」
笑顔で答えたAだったが、その眼

には悔しさがにじみ出ていた。

そこで、Aの上達を願い、失敗の原因を言葉で表現させることにした。

「今は何がいけなかったのか」「どうすればミスを防げるのか」という投げかけにより、「飛び出すタイミングが悪かった」「足の向きが…」と次々に課題が明確になった。その課題を地道に解決することで、Aは誰からも一目置かれる選手となり、自然な笑顔がこぼれるようになった。

順調に勝ち進んで迎えた最後の大会の決勝戦で、大きな接触事故が起こった。グラウンドに響く鈍い音。その瞬間、全員がAの元に駆け寄った。Aの苦悶の表情と、ピッチに鳴り響く救急車のサイレン。試合に勝利したはずなのに、残された生徒に笑顔がなく、「Aは大丈夫ですか」と次々に心配の声があがった。「きつと大丈夫だ」と伝えながら、私の中では、言い知れぬ不安と事故を防止できなかった後悔が駆け巡っていた。

幸い、命に別状はなかったが、一か月の入院を余儀なくされた。進路への不安や運動制限へのストレスは計り知れないものだった。しかし、「散歩ができるようになりました。」
「この記述問題はどう解きますか。」
と、窮地に追い込まれても笑顔で前向きに過ごすAを見て、逆に私が励

まされていった。

そんなAの姿を見て、私も部員も「Aに優勝杯を持たせてあげたい」という気持ちを強めた。念願の優勝を決めた決勝戦当日に全員で撮れなかった写真を撮りたいと願い、試合会場を予約した。

写真撮影の当日、
「ほらA、持てよ。」

と、部員たちがAに優勝杯を渡す。Aは、うれしそうに持ち上げた。Aの三年間の努力や忍耐、誠実さが詰まった悔いのない笑顔だった。

生徒が健康で笑顔でいられることに心から感謝し、この一枚の写真は、私の宝物になった。



「氷は冷たすぎるから、ガーゼに包んで冷やす方がいいかな。」

試行錯誤しながらも手当の仕方戸惑っていたB児に対し、A教諭は、「困ったことがあったら、他のチームの子たちに聞いてみていいよ。」と伝えた。すると、Bは隣のチームの様子を見て、あることに気付いた。「この包帯みたいなテープ、隣は、切ってガーゼをとめていたけれど、傷口を強く押さえないと血が止まらないよ。ぐるっと巻いてみよう。」

切り傷の手当には、直接圧迫をして止血するとよいことを思い出したのだ。A教諭の課題設定や体験的な授業、声掛けによって、仲間と関わり合いながらB児は今までの知識を掘り起こし、よりよい応急処置の方法を導き出すことができた。

注意していても、思わぬことで事故が発生することがある。大人を呼びにいくことや他人の血液に触れないことなど、教師が知識として子供たちに伝える点はたくさんある。しかし、自分でできる応急処置の方法を仲間と考え、体験から気付いた学びこそ、生きた経験となり、自ら行動することにつながる。生きた保健教育は「生きる力」を育む。



▲参加者同士の交流を図る認知症カフェ「ガーデン cafe」
(スクエアガーデン包括支援センター)

学校・地域で支え合う 「地域包括ケア」を 目指して

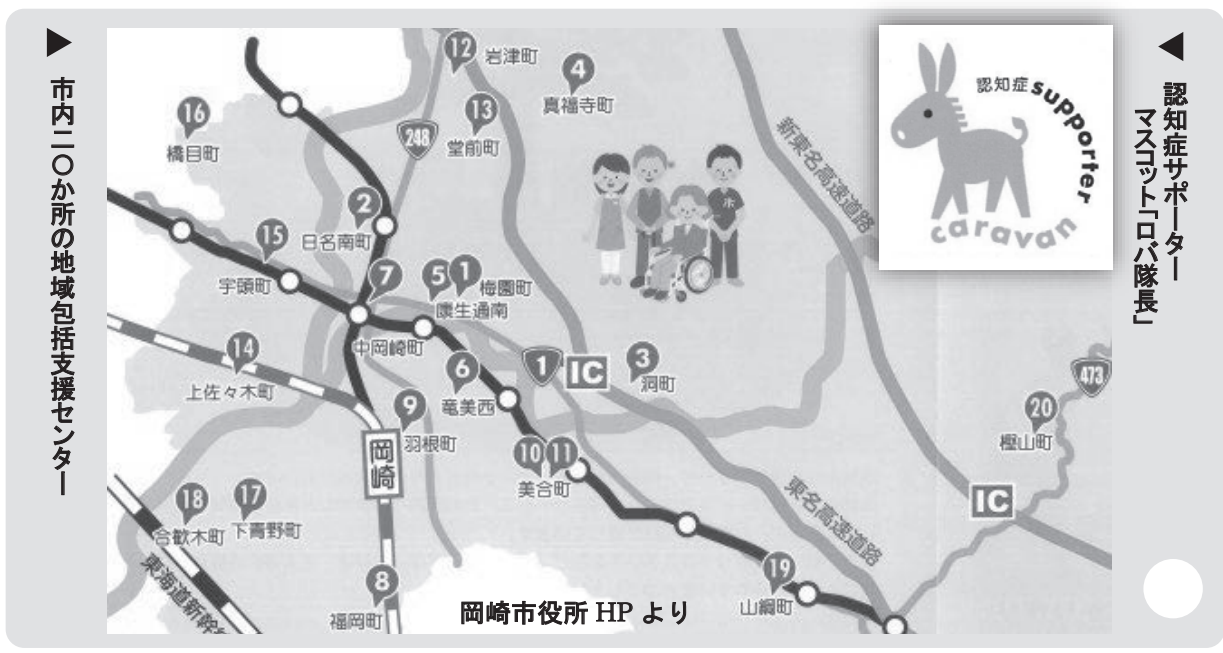
地域包括支援センター

地域包括支援センター（以下、包括センター）は、高齢者及びその家族からの相談の受付や高齢者の見守り、心身の状態に合わせた支援を行う拠点である。岡崎市では、社会福祉法人等に委託して、市内二〇か所に包括センターを設置している。

学校と包括センターは連携し、高齢者への理解を深めるため、様々な体験活動を行っている。例えば、「認知症サポーター養成講座」がある。子供たちは、認知症の症状について学び、認知症の方に対する接し方を考え、サポーターとしての自覚を深める。また、高齢者の色の見え方や体の動きを疑似体験する学習も行われている。中学校では、包括センターで演奏会や作品展を開き、高齢者との交流を図っている。これらの体験や交流を通して「認知症の方が困らないような手助けがしたい」という思いをもつ子供がおり、高齢者への理解の深まりが感じられた。

地域を巻き込む取り組みもある。コロナ禍における高齢者の健康増進をねらい、少しでも外出する機会を増やすために始めた「お散歩ビンゴ」である。町中に設置された掲示板を目標として歩く仕組みだ。小中学生も参加できるように、キッズデイズに合わせて行われた「オレンジプロジェクト」もある。認知症のシンボルカラーであるオレンジ色で町中を染め、楽しみながら高齢者に対する知識を深めた。

包括センターの職員は、「ゆくゆくは高齢者が包括センターに頼らずとも、地域の人々に見守られ、自立した生活ができる『地域包括ケア』を目指している」と言う。誰もが幸せに暮らせるように、包括センターと地域社会、さらに小中学校との積極的な連携が必要である。そして、この連携が、子供たちを地域社会の一員として助け合える人に成長させていくことにつながっていくのではないだろうか。



市内二〇か所の地域包括支援センター

認知症サポーター
マスコット「ロバ隊長」



▲高齢者の色の見え方について学ぶ
(羽根小・スクエアガーデン)



▲認知症サポーター養成講座
(宮崎小・額田地域包括支援センター)



▲高齢者の模擬体験
(恵田小・北部地域包括支援センター)



▲学区行事での学区民の健康増進活動
(城南小・スクエアガーデン)



▲矢作中学校作品展
(矢作中・西部地域包括支援センター)



▲吹奏楽部によるクリスマスコンサート
(東海中・東部地域包括支援センター)

地域包括支援センター
と小中学校の連携



▲高齢者と共にオレンジ色のミサンガ作り
(むつみ・南部地域包括支援センター)



▲お散歩ビンゴ
(むつみ・南部地域包括支援センター)

地域を
巻き込む
取り組み



●最新情報

○滝山寺の「木造日光月光菩薩立像」と「木造十二神将立像」の十四体が重要文化財に指定されることに

現在、岡崎市指定文化財である滝山寺の「木造日光月光菩薩立像」と「木造十二神将立像」の十四体は一二四二(仁治三)年に制作が始められ、一二五〇(建長二)年に完成したとされる。十二神将立像は、はつきりとした顔の造形やほら貝を持ち物としている点で、類例がないという。

今回、市指定文化財から県指定を経ずに重要文化財に指定されるが、このようなケースは珍しい。

普段は、滝山寺の本堂に十四体が安置されており、格

子越しに拝観できる。
※三月半ば頃まで調査のため数体持ち出されている。
木造日光月光菩薩立像

木造日光菩薩立像

○生徒指導提要在十二年ぶりに改訂

「生徒指導提要」とは、生徒指導の実践に際し教職員間や学校間で共通理解を図り、組織的・体系的な取組を進めることができるよう、生徒指導に関する学校・教職員向けの基本書として作成されたものである。



木造日光菩薩立像



木造日光月光菩薩立像

近年、いじめ防止対策推進法等の関係法規の成立など学校・生徒指導を取り巻く環境は大きく変化するとともに、生徒指導上の課題がより一層深刻化している状況にある。こうしたことを踏まえ、生徒指導の基本的な考え方や取組の方向性等を再整理し、今日的な課題に対応していくため、十二年ぶりの改訂を行い、令和四年十二月に公表されたものである。

文科科学省のHPに掲載された「生徒指導提要(改訂版)」は、デジタルテキストとなっており、目次や索引などをクリックして、該当ページに飛ぶことができる。また、文章中の法令名や脚注番号をクリックすると詳細ページや脚注に飛ぶことができるようになった。

また、生徒指導の基礎的な考え方から、個別の課題に対する具体的な生徒指導までの網羅的に示されており、学校全体で共有すべき内容である。

各校において、改訂された生徒指導提要の内容を踏まえ

た児童生徒支援を展開してほしい。

○叙勲・各種表彰

長年の教育活動における功績が認められ、次の皆様が叙勲・各種表彰を受けられました。おめでとうございます。

- 瑞宝双光章 筒木 幸夫
- 瑞宝双光章 古田 忠久
- 瑞宝双光章 稲垣 博
- 瑞宝双光章 藤井 洋典
- 瑞宝双光章 福應 謙一
- 瑞宝双光章 本間 茂夫
- 瑞宝双光章 文部科学大臣表彰 柵木 智幸
- 瑞宝双光章 文部科学大臣表彰 柵木 智幸
- 瑞宝双光章 愛知県教育表彰 栗田 錦治
- 瑞宝双光章 愛知県教育表彰 鈴木 栄二 (敬称略)



教職員の相談窓口

【対象】 全教職員 【相談内容】 勤務のこと・家庭のこと・心や体のこと 等

番号	相談窓口	電話番号	相談受付日時
1	岡崎市教職員相談ダイヤル	0564-64-3322	火曜日～金曜日 12:00～19:00 土曜日 12:00～16:30
2	岡崎市こころのホットライン	0564-64-7830	月曜日～金曜日 13:00～20:00
3	愛知県総合教育センター教育相談	0561-38-2217	月曜日～金曜日 9:00～16:00
4	あいちこころのホットライン 365	052-951-2881	年中無休 9:00～16:30
5	名古屋いのちの電話	052-931-4343	年中無休 24時間

●表彰関係

◆文部科学大臣表彰

○学校保健の部 福岡小

◆第71回愛知県中学校駅伝大会

○男子の部

優勝 矢作北中

○女子の部

第2位 矢作北中

第3位 竜海中

○区間賞 男子

2区 矢作北中 小山 環

3区 矢作北中 田畑 尚志

4区 翔南中 柴田 貫慈

6区 矢作北中 伊藤 颯汰

○区間賞 女子

4区 矢作北中 中垣のぞみ

◆第4回愛知県新人陸上競技会

○中学生の部 男子110mH

第2位

矢作中 許田 響

◆第39回愛知県中学生新人柔道大会

○女子の部 柔道団体

敢闘賞 矢作中

銀賞

◆第41回愛知県中学生バレーボール新人大会

○男子の部

優勝

矢作中

○女子の部

第3位 美川中

◆第11回日本学校合奏コンクール2022全国大会

グランドコンテスト

○中学校の部

銅賞 福岡中

翔南中

◆第11回日本学校合奏コンクール2022全国大会

ソロ部門

中学校の部(バイオリン)

金賞 福岡中 飯銅 麗

○アンサンブル部門

中学校の部(クラリネット四重奏)

銀賞 北中

梅田 悠衣・小野 莉緒

樋口 実里・齋藤 咲杏

◆第65回中部日本吹奏楽コンクール 本大会

銀賞

矢作中

◆CBCこども音楽コンクール 中部日本決勝大会

○小学校 声楽部門(合唱)

最優秀賞

(文部科学大臣賞選考会代表)

◆愛知県政150周年記念(私の住むまち あいちの未来) 絵画コンクール

○中学生の部

最優秀賞

甲山中 大嶋 望

中山中 加納 愛子

優秀賞

甲山中 加納 愛子

最優秀賞

(文部科学大臣賞選考会代表)

最優秀賞

竜海中

○中学校 合唱部門

優秀賞 第3位 竜海中

◆トンボ学生服主催制服デザインコンクール

○体操着部門

最優秀賞

城北中 佐藤 未来

◆歯・口の健康に関する図画・ポスターコンクール

最優秀賞

六ツ美中 市古 悠人

環境大臣賞

河合中

◆愛知県150周年記念(私の住むまち あいちの未来) 絵画コンクール

○中学生の部

最優秀賞

甲山中 大嶋 望

中山中 加納 愛子

◆愛知県統計功労者表彰

○愛知県統計協会会長表彰統計グラフコンクール指導者表彰

優良賞

形埜小 倉橋 汐里

三島小 神谷 明彦 教諭

◆第29回愛知県中学校力ヌー大会新人戦

○女子カヤック二人乗り

優勝 新香山中

釘宮 輝・山崎 葉愛

○花壇を描いた写生コンクール

特選(愛知県知事)

形埜小 稲葉 万結

○花壇を描いた写生コンクール

特選(中日新聞社)

形埜小 神谷 奈津

○花壇を描いた写生コンクール

特選(愛知県知事)

形埜小 稲葉 万結

○花壇を描いた写生コンクール

特選(中日新聞社)

形埜小 神谷 奈津

○花と私の作文コンクール

特選(愛知県知事)

形埜小 小川 湊翔

○花と私の作文コンクール

特選(中日新聞社)

形埜小 村田 蒼亮

○花と私の作文コンクール

特選(愛知県教育委員会)

形埜小 星野かすみ

○花壇を描いた写生コンクール

特選(愛知県知事)

形埜小 稲葉 万結

○花壇を描いた写生コンクール

特選(中日新聞社)

形埜小 神谷 奈津

○花壇を描いた写生コンクール

特選(愛知県教育委員会)

形埜小 倉橋 汐里

○愛知県統計協会会長表彰統計グラフコンクール指導者表彰

優良賞

形埜小 倉橋 汐里

三島小 神谷 明彦 教諭

○女子カヤック二人乗り

優勝 新香山中

釘宮 輝・山崎 葉愛

○女子カヤック四人乗り

3位 新香山中

釘宮 輝・山崎 葉愛

○女子カヤック四人乗り

3位 新香山中

釘宮 輝・山崎 葉愛

沖林 綾瞳・坂田結衣香

・カ
ツ
ト

城
北
中

高
橋
み
な
み

開校100周年記念式典 (昭和48年)

写真提供：大樹寺小学校

昭和四八年十二月二日、大樹寺小開校百周年を記念して、式典および文化展・児童作品展が行われた。学区の方や子供たちの作品が、屋外にも展示され、多くの人々の文化交流の場となった。

五十年が経ち、令和五年度の百五十周年に向け、現在地域の方々と力を合わせ、準備をしている。式典を始め、様々な企画は全て「子供のための会」になることを中心に進めている。

各学校で行われている周年行事は、地域のコミュニティとしての学校を再認識させてくれる。また、その学区、その学校に脈々と受け継がれてきた伝統や歴史を見つめ直すよい機会となっている。



年を重ね高齢者となった時代を想像してみる。どんな世界になっているのだろうか。温かいオレンジ色の世界だろうか。「包括センターを取り上げてもらえるなんて、うれしいです」。高齢者とその家族だけでなく、子育て世代への周知は、センター職員の良い願いだ。住みよい街作りは、互いを知ることから始まる。

とホ

睦目ツ



▲仲間と共に今年もスタート (竜海中)

「誇りと自信」という言葉を何度口にされただろう。店内には、丸い座布団や赤ちゃん用の夜着が並ぶ。全て客からの受注品で、坂部さんの手作りだ。今、客の要望を叶える布団屋は少なく、他市からの客が増えているそうだ。

「お客様に喜んでほしい」と坂部さん。人を想う気持ちで心と技を磨いている。

堤に吹き込む新年の風は、肌染みる冷たさを容赦なく携えている。走り初めに臨む生徒を激励するかのよう、一瞬で心を引き締めてくれる。白い息を吐き、風を切って走り出す。隣には、互いを高め合ってきたライバルの姿。背中には、力強い仲間の声援。寒さに負けぬ熱い戦いが、今年もまた始まった。



*死にたかった発達障がい児の僕が自己変革できた理由
西川幹之 佑
時事通信社 ¥1,600

心に残った一文

教室を飛び出したい出ていくのではない。

自分の気持ちをコントロールできず、自己肯定感が低かった著者。しかし、麹町中学校の工藤勇一校長先生との出会いをきっかけに、様々な人の支えを受けながら前向きに生きるようになった過程とその時の気持ちが記述されている。

学校現場では、子供の行動の理由や感情が理解できずに悩むことがよくある。自分の経験や発達に関する専門家の様々な対応策を参考に支援をするが、うまくいかないことが多い。本書を読むことで、「あの子は、そんなことを感じていたのか」と新たな発見があった。目の前の子供の見方が変わる一冊である。

- *誰が国語力を殺すのか 石井 光太 文藝春秋 ¥1,600
 - *発達障害「グレーゾーン」 岡田 尊司 SBクリエイティブ ¥900
 - *ストレス脳 アンデシュ・ハンセン 新潮社 ¥1,000
- 緑丘小学校 紀平 高之